

令和元年度 国道168号防災検討会(第2回) 議事概要

1. 日 時 令和2年2月18日(火) 13:30~15:30

2. 場 所 近畿地方整備局 奈良国道事務所 会議室

3. 出席委員

委員長	おきむら たかし 沖村 孝	一般財団法人 建設工学研究所 代表理事(神戸大学名誉教授)
	ましも ひでと 真下 英人	一般社団法人 日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所長
	すぎもと ひろゆき 杉本 宏之	国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべりチーム 上席研究員
	はら ひさや 原 久弥	国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所長
	まつだ ひろゆき 松田 浩之	奈良県 県土マネジメント部 道路政策官(道路建設課長事務取扱)

4. 議 事

(1) 国道168号五條新宮道路

【対象区間:十津川村大字七色~大字平谷((仮称)十津川道路Ⅱ期)】

(2) 議事概要

○第1回検討会での意見について

第1回検討会の指摘事項について、検討・整理した内容について確認した。

○道路計画上の技術的課題について

計画ルートにおける課題とその対応について確認し、対象区間の技術的課題としてとりまとめを行った。

<委員からの主な意見>

- 当該地域の厳しい地盤条件により、調査・設計・施工段階における難易度が高く、高い技術力を要する事業である。
- 今後、調査・設計・施工を行う際に留意すべき事項について、以下の助言があった。
 - ① 3号トンネル北側坑口部の切土計画については、最上段の法面まで断面図を作成し、災害要因との位置関係を十分確認しながら進めること。(資料-1 P16)
 - ② 桑畑地区の地すべり地形は、端部の沢地形を中心とした現地踏査や、ポイントを絞ったボーリング及び孔内傾斜計による変動状況の把握など、今後の効率的な調査により変動方向把握しておくべき。(資料-1 P7、8)
 - ③ 災害要因を有する箇所における孔内傾斜計設置観測については、可能な限り早期に開始し、なるべく長期間のデータ蓄積に努めること。(資料-2 P11)
 - ④ 小井地区は地表に露出すると風化しやすい地層が存在する可能性があるため、風化防止や全排土などの適切な対策を検討すること。

- ⑤ 2号トンネル南側坑口、3号トンネル南側坑口の現道近接部について、細かに断面を切って近接度合いを確認し、施工時観測の必要性や観測項目の妥当性を検討されたい。
- ⑥ 今後、トンネル深部における断層、熱水変質帯等の施工時の災害要因を把握するため、トンネル全線を対象とした弾性波探査等を実施のうえ、対策を検討すること。
- ⑦ CIM の活用が進んできているため、トンネルと橋梁の近接部や、構造物と地すべり地形など災害要因の近接部において、複数の分野の CIM を融合させた統合的な CIM の活用を検討されたい。

以 上